

昔おきなわ風景探索

沖縄県公文書館所蔵の写真と空中写真

Q. どこでしょうか？

1945年5月



地図を表示

(写真番号：75-04-4 をカラー処理)

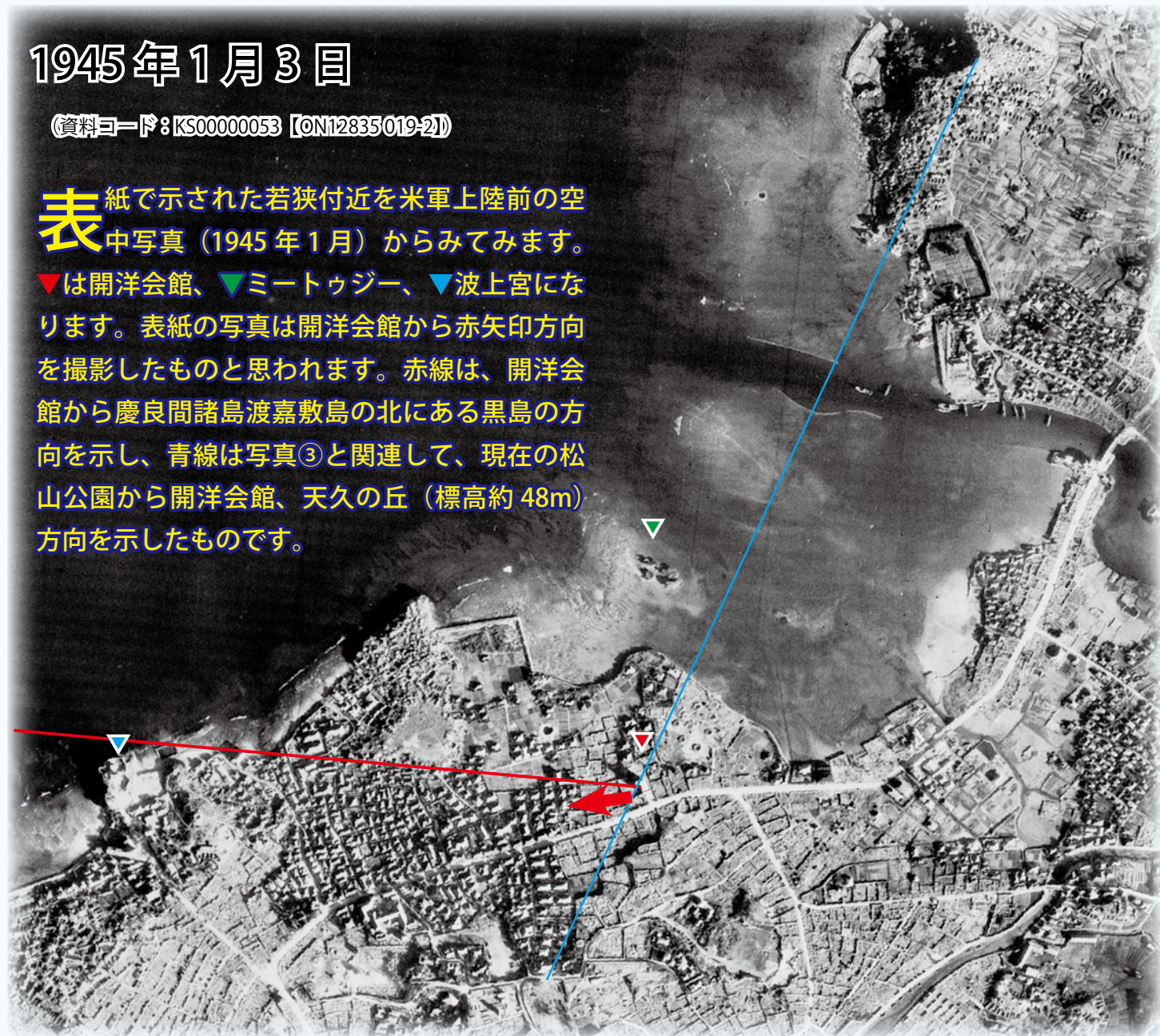
A. 那覇市若狭

沖 縄戦の最中の那覇の街。手前には屋敷囲いの石垣がみえます。その背後には瓦屋根の家がまだ残っていますが、屋根に砲弾跡と思われる穴がみられます。立派な家屋敷があったことが想像されます。その後方は高台になっており、拡大すると▼鳥居がみえます。さらに遠方をみると、島影がぼんやりとみえます。慶良間の島々です。▼の島影は、黒島のようなようです。どうやら三階建ての開洋会館*から若狭方面を撮影した写真のようです。

1945年1月3日

(資料コード:KS00000053【ON12835019-2】)

表紙で示された若狭付近を米軍上陸前の空中写真(1945年1月)からみてみます。
 ▼は開洋会館、▼ミートウジー、▼波上宮になります。表紙の写真は開洋会館から赤矢印方向を撮影したものと思われます。赤線は、開洋会館から慶良間諸島渡嘉敷島の北にある黒島の方
 向を示し、青線は写真③と関連して、現在の松山公園から開洋会館、天久の丘(標高約48m)方向を示したものです。



写真① 表紙の写真(左側:1945年5月)に別の写真(右側:1945年6月28日)を接合しました。撮影月や撮影位置が異なるようですが、大きな変化はみられません。右側写真には開洋会館の壁が写りこんでいます。(写真番号:75-04-4,74-33-4を接合)

1945年12月10日



写真② 前頁で示された若狭付近を1945年12月10日撮影の空中写真からみてみます。前頁と同じく▼は開洋会館、▼ミートウジー(夫婦岩/夫婦瀬)**、▼波上宮になります。表紙に写されていた開洋会館の若狭付近は、敷きならされて広場になっており、戦禍から逃れ、残っていた民家は跡形もありません。ほとんど米軍の施設でおおいつくされています。(写真番号:AP451210A0_027)



写真③ 開洋会館の背後には天久の丘があるようです。前頁の空中写真で直線を引いて調べると、現在の松山公園の北側から写っているようです。(1945年5月29日)(写真番号:87-39-2)



写真④ 旧若狭町大通りを西側からみた写真で、中央付近の建物は開洋会館。この通りはかつて、電車の軌道が通っていました。(1945年5月)(写真番号:88-32-4)



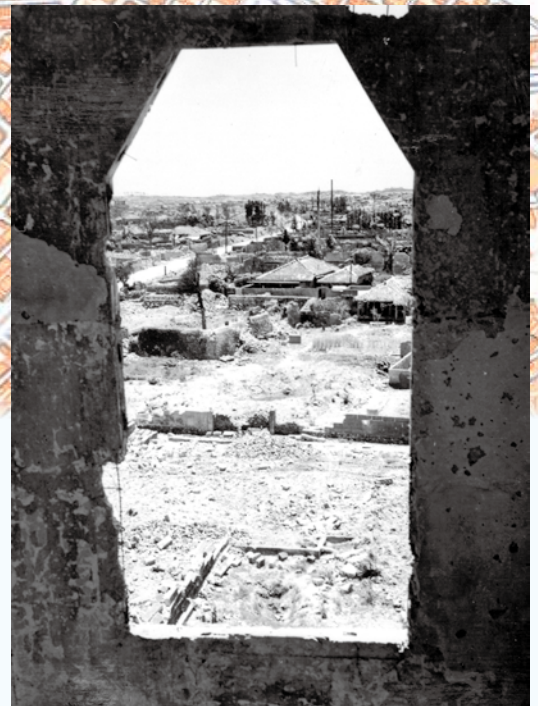
写真⑤ 旧若狭大通りを東側からみた写真。道路はきれいに舗装されています。(1945年5月29日)(写真番号:72-34-2)



写真⑥ 旧若狭大通りを東側からみた写真。右側に開洋会館の玄関がみえます。(1945年)(写真番号:02-45-4)



写真⑦ 開洋会館の南側。(1945年6月)(写真番号:74-28-1)



写真⑧ 開洋会館の窓からみた若狭。(1945年5月)(写真番号:74-37-2)

前頁の矢印の位置を現在の標準地図(国土地理院)に落としてみました。地図上の矢印や三角印は空中写真とほぼ同じ位置になります。写真⑧は、表紙の写真と同じく開洋会館からの眺めで、表紙の写真よりも少し離れた右側の窓から撮影しているようです。

注 * 那覇市史 1979『那覇の歴史民俗地図』

**「角川日本地名大辞典」編纂委員会 1986『角川日本地名大辞典 47 沖縄県』

昔おきなわ風景探索 No. 18

発行日: 令和8年(2026)3月13日

編集執筆: 当山昌直(1951年生)

発行: (公財) 沖縄県文化芸術振興会 公文書管理課

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町新川148-3 沖縄県公文書館内

電話(代表) 098-888-3875 FAX: 098-888-3879

増刷版

沖縄県公文書館デジタルアーカイブ

アメリカ統治下にあった頃の写真や空中写真を公開しています。

